

神社舞台

上勝には神社に隣接する農村舞台と呼ばれる小さな野外舞台がたくさんあります。守り神に豊作の感謝をささげるため、秋に歌舞伎や人形劇が上演されました。その多くが江戸時代（1603-1867）まで遡るこれらの芝居は、高齢化とともにほとんど姿を消してしまいましたが、それでもこれらの農村舞台は農家の人々の伝統的な風習を理解する上で重要です。

上勝の各集落には農村舞台がありました。芝居は集落の人々や徳島県出身の一座によって上演されました。これらの舞台には、シンプルながらも、迫りや、演奏者や語り手のための演壇など、さまざまな仕掛けが備えられていました。

今日では、豊作に対する感謝を表すため、十月または十一月に神輿が担がれ舞台のそばを巡行します。

場所

- ・ 市宇：八幡神社

舞台装置：語り手の演壇

- ・ 檜原：秋葉神社

舞台装置：語り手の演壇

- ・ 田野々：神明神社

舞台装置：語り手の演壇、仮花道